

結いの心

地域みんなで結ぶ大きな絆

令和6年6月号

木城町自治公民館連絡協議会

自治公民館活性化支援員 大 津 新

令和6年度第1回自治公民館長会・自治公民館連絡協議会総会より

4月24日（水）第1回自治公民館長会、自治公民館連絡協議会総会を開催しました。館長会では、開会行事での会長、教育長、ご来賓の町長のご挨拶の後、地域担当職員制度、自主防災組織、補助金等について説明させていただきました。また、みどりの杜木城学園からも校長先生、教頭先生、大山地域コーディネーターにご参加いただき、学校と地域の連携のついてお話しいただきました。さらに自治公民館連絡協議会総会では、令和5年度の活動・決算報告、令和6年度の活動計画案・予算案の審議、役員選出を行いました。新役員を中心に、これから活動がスタートします！ ※今回の会議には、町新規採用職員の皆さんも研修として参加しました。



＜令和6年度木城町自治公民館連絡協議会役員＞

役 職	氏名(館長名)	自治公民館名	理 事	田上 涼子	中川原住宅
会 長	杉田 博	御 池	理 事	山下 智大	岸立団地
副会長	西 有一郎	岩 渕	理 事	永友 文法	白木八重
副会長	中竹 義一	石河内	監 事	平野 大輔	中 原
理 事	長友 康隆	重 木	監 事	長友 克裕	比 木
理 事	國岡 伸二	牧之内	＜敬称略＞		

第1回自治公民館連絡協議会役員会

5月14日（火）令和6年度の自治公民館連絡協議会の第1回役員会を開催しました。今年度の活動計画、役員として参加する会議、6月23日（日）に開催予定の「町民ミニバレーボール交流大会」について協議しました。役員の皆さんには、自治公民館相互の連携や町民の皆さんに参加していただく活動をご支援いただきます。ご苦勞をおかけしますが、一年間よろしくお願いいたします。

＜8月までの予定＞

6月23日（日）木城町民ミニバレーボール交流大会（総合体育館）

※自治公民館ごとに参加チームを募集します！ → 18日（火）抽選会

7月10日（水）宮崎県公民館経営セミナー（西都市：予定）

7月18日（木）木城町自治公民館連絡協議会第2回役員会（リバリス）

8月27日（火）第2回自治公民館長会（リバリス：予定）

8月29～30日 九州地区公民館研究大会大分大会



各自治公民館での活動もスタートしました！

5月5日（日）湯屋ヶ坂自治公民館のグランドゴルフ大会が、山塚運動公園で開催されました。当日、天候にも恵まれ、地区の皆さんで和気藹々の大会となっていました。



休憩中や公民館に戻っての懇親会では、お互いのプレーを振り返りながら、またお互いの健康を確かめながら盛り上がっていました！お疲れ様でした！

テレビやネットでもよく見聞きする「SDGs」ってなあに？（3）

今回から SDGs の 17 の目標について紹介します。



1 貧困をなくそう

世界の貧困率は 2000 年以來、半分に以下に低下したものの、開発途上地域では今でも 10 人に 1 人が、1 日 1 ドル 90 セントという国際貧困ライン未満で家族と暮らしています。また、さらに数百万人が、毎日この金額とほぼ変わらない水準で生活しています。東アジアと東南アジアの多くの国では、大幅な前進が見られているものの、サハラ以南アフリカでは依然として、この貧困ライン未満で暮らす人々の割合が 42%にも達しています。**貧困とは、単に持続可能な生計を確保するための所得と資源がないことではありません。貧困は飢餓や栄養不良、教育その他基本的サービスへのアクセスの制約、社会的差別と排除、さらには意思決定への不参加など、数多くの形を取って表れます。経済成長を包摂的なものとすることで、持続可能な雇用を提供し、平等を促進しなければなりません。社会保障制度を導入し、災害が多い国での被害の軽減に役立てるとともに、大きな経済的リスクに対する支援を提供する必要があります。こうした制度は、災害時に予期せぬ経済的損失に見舞われた人々による対応の強化に資するほか、最終的には最貧地域で極度の貧困に終止符を打つことにも役立つでしょう。**



2 飢餓をゼロに

私たちが食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、適正な所得を創出しつつ、人間中心の農村開発を支え、環境を守ることができます。現状を見ると、**私たちの土壌や淡水、海洋、森林、そして生物多様性は急激に劣化しています。気候変動は、私たちが依存する資源をさらに圧迫し、干ばつや洪水などの災害に関連するリスクを高めています。農村で暮らす多くの女性と男性は、その土地で生計を立てられなくなり、機会を求めて都市への移住を余儀なくされています。また、食料不安の結果、数百万人の子どもが深刻な栄養不良による発育不全や低身長症に陥っています。現時点で空腹を抱える 8 億 1,500 万人に加え、さらに 2050 年までに増加が見込まれる 20 億人に食料を確保するためには、グローバルな食料と農業のシステムを根本的に変える必要があります。農業生産性を高める能力の強化には、農業への投資が欠かせないほか、飢餓の危険の緩和に資する持続可能な食料生産システムも必要です。**

< 国際連合広報センター資料参照 >